

議 事 録

会議の名称	令和3年度 第2回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和4年1月11日(木) 午後3時30分
開催場所	愛荘町立秦荘中学校 セミナーハウス立志館1階 研修室
出席者	<p>【構成員】7名 町長 有村 国知 副町長 中西 功 教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭 教育委員 松浦 延代 中村 由香里 八島 琢磨</p> <p>【事務局】8名 政策監(総務) 青木 清司 政策監(福祉) 森 まゆみ 教育次長 上林 市治 学校教育担当課長 辻 裕樹 生涯学習課長 陌間 秀介 図書館館長 茶谷 えりか 給食センター所長 本田 有弘 教育振興課係長 久保 泰代</p> <p>【傍聴者】0名</p>
議事日程	協議事項 「今後の中長期的な教育施策について」
作成者	教育振興課 久保 泰代
上林次長	午後3時30分 開会 ただいまから令和3年度第2回愛荘町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして有村町長よりご挨拶をお願いいたします。
有村町長	皆様こんにちは。本日は第2回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。日ごろから教育委員の皆さんのお力をいただいておりますこと心から感謝申し上げます。ありがとうございます。また先日の新成人のつどいにもご出席をいただきありがとうございました。町内の教育を受けた方が新成人になられた大事な場でしたので皆様と新成人の方々の人生の節目にご一緒できたこと本当にうれしく思います。本日もどうぞよろしく申し上げます。
上林次長	ありがとうございました。それでは会議の方に移りたいと思います。会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。設置要綱第4条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を有村町長をお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。
有村町長	それでは設置要綱に基づいて議長を進めさせていただきますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。 次第の2、議題の協議事項、「今後の中長期的な教育施策について」にかかる

	<p>意見交換です。</p> <p>まずは、教育振興課の辻学校教育担当課長及び岸邊参事より説明をしていただきます。よろしく申し上げます。</p>
辻課長 岸邊参事	<p>「今後の中長期的な教育施策について」 資料により説明</p>
有村町長	<p>ありがとうございました。それでは皆様と意見交換をしたいと思います。</p>
八島委員	<p>説明いただいた内容についてもう少し具体的に説明をお願いしたいのですが、A4の紙の左側の真ん中に「愛荘スタンダードの実践」と記載されていますが、これはどのようなことをイメージされていますか。</p>
岸邊参事	<p>今年度小学校1年生対象に彦根南ロータリークラブのご協力を得て下敷きを配布いたしました。そこに、愛荘の「あ」「い」「しょ」「う」というように頭文字を使って、主体的に学びましょうと学習に向かう姿勢をまとめたものを掲載しました。それを現在小学校の各教室にも掲示してもらっていますが、それをさしています。</p>
八島委員	<p>わかりました。ありがとうございました。</p> <p>またA3の16年計画の大きな流れをこのようにしたいということはわかるのですが、これについての実行計画を明示してほしいです。具体的に小学校・中学校がこれを受けてどんなことをしたらよいか、実施して結果どうだったかということを経後の方針にフィードバックするという流れを示して欲しいと思います。またこの計画を各校に示して、このようにしなさいだけではなく教育委員会も一緒になってどう取り組んで前に進めるかということを考えてほしいと思います。計画、実施、評価、改善をしっかりと行えばよい方向に行くと思うのでぜひお願いしたいと思います。</p>
岸邊参事	<p>中学校はそれぞれの学校で学習の手引きを入学時に配布しています。</p> <p>また今年度から愛知中学校はテスト前だけではなく、テスト振り返り週間を設けて家庭学習を促す取り組みを行っています。そのような情報をそれぞれの学校の学ぶ力向上推進リーダーから情報を共有することが可能ですので、今後ご助言いただきました視点を実施しこの表にフィードバックしていきたいと思ます。</p>
松浦委員	<p>教育16年構想ということで、長いスパンで説明していただきわかりやすいです。</p>

	<p>私の子ども2人の家庭の話ですが、1人の家庭の方はお母さんが本好きな家庭で小さなころから本と一緒に生活しているような毎日です。どちらかという自分からテレビもつけない、また食事のときでもテレビを消されても何も言わないような家庭です。もう1人の家庭は忙しさにかまけて、食事の準備している時でも本は買ってもテレビがついているとテレビの方に走っていくということです。親の考え方が一番大事なことはないかなと思います。</p> <p>今回こういう計画を立てていただいたので保護者に本の大切さ等がよくわかる学習の機会を設けていただければよいと思います。保護者も本が好きな方は良いのですが、本が苦手な方はおられると思います。まず子どもに本を読みなさいだけでなくどうすれば本が好きになるかということを考えていただき各家庭で本好きな子どもを育てていく家庭が出来ればよいと思います。</p> <p>自分の家に当てはめて読ませてもらいましたが、7ページで感じたことは家庭学習の部分は勉強のやり方が書いてあるのでわかりやすいと思います。ただ全体的に漢字を書くとか計算する等は継続的に実施され計算力や語彙力は身につけていると思うのですが、表現力・文章を書くことがすごく少ない気がしています。またうちは3人の子どもがいるのですが、作文や日記、感想文の宿題が減ってきて来ているような気がします。それだけの理由ではないと思うのですが、下の子は自分の意見を言ったり書いたりがとても苦手でそういう課題を増やしてもらいたいと私は感じています。</p> <p>またコミュニケーション力が低いと感じています。家の中が核家族で、「あれとって」「それ」等の会話が少なくても生活が成り立ち、主語のない会話でも会話が成立します。そうするとほかの人と話すときに会話が成立しません。こちらは成長したら話せるようになるかなと思っていますが、高校生と話していても全然話が通じなかったりするので家庭内の問題もありますが、やはりおじいちゃんおばあちゃんがいる家庭が減ってきて緊張感のない家庭環境で、こちらも手を抜いてしゃべってしまうので、もっと家の中でコミュニケーション力を上げられるような生活ができればよいと思います。</p> <p>また6章についてですが、本が好きな子は自分から本を探していくので心配がないのですが、苦手な子は自分から好きな本を見つけることができず、私がこの本が好きかなとか思って借りてきてもなかなかマッチングしません。図書館の方から読書のススメ等いろいろ教えてもらっているのですが、もっと具体的に男子向けや、男子向けでも冒険物が好きな子もいれば、怖いのが駄目な子もいます。今示してあるのは何年生向け等書いてあるだけであまりよくわからないのでもっと具体的に分類してもらえると探しやすいと思います。</p>
中村委員	
森委員	<p>私も学力向上に関して、具体的にどうするのか学校ではどうしたらよいのか非常に悩んできました。</p>

息子の家庭が遠方にあるのですが両親とも仕事で、またコロナの関係でいろいろ形態も変わってきています。5歳と3歳の孫がいるのですが子どもたちの世話に来て欲しいと連れ合いに連絡があります。1週間程行って、連れ合いが帰ってくると、「疲れた。」と言います。

自分の娘の家ならばもっと細かいこともいろんなことを言うのだけど、息子の家なので子育てその他いろんなものについて口が出しにくい。こういうことしたいなこういうことをしていきたいなということ思うけれども、遠慮気味になります。

私の子どもたちには本を読むように昔から言ってきました。うちの娘は小さい時から本が大好きです。息子は読むのは別に嫌いではないけれども、部活等を主にやっていてどんどん本から離れていきました。そうすると息子と娘の会話を見ていると、高校生くらいになると語彙能力・語彙数・理解力に差が出てきました。

小さいときは、いろいろと本読むのが好きで本は必ず自分の近くに置いて、同じように2人は読んでいたのですがやはり焦点がだんだん変わってきます。娘は部活をやりながらも本が大好きで今も図書館に勤めさしていただいて、どうしても本から離れられない。息子は仕事やほかのこともする必要があり仕事関係の本は読んでいてもなかなか本を読むことが出来ない。

ただ一つ、子どもに本を読むことが大好きで、お父さんこれ読んで頼まれると一生懸命読んだりして、小さい時の息子の姿を見ているような感じがしました。

孫2人は、本を読むのは大好き。体を動かすのも大好き。タブレットを使うのも大好き。スマホも5歳の子がこうするのだと教えてくれますが、そればかりしないでという気持ちを持ってしまいます。

先日の川島先生の研修を聞いていても確かにそうだなと思うことがたくさんありました。

私が子どもたちを指導していた時のことで2つ思い出すことがあります。

1つ目は、漢字は日本人にとって離れることはできないので漢字だけは徹底的に学習したということです。

パソコンは文字を入力すると変換してくれます。しかしどの漢字を選ぶかは自分で判断しなくてはいけない。だからどれを選ぶのか自分でわからなくなったら、事典で調べるなり何らかの形でこれはどういう意味なのかということ自分を調べる必要がある。だから面倒でも日本人として漢字を使う人間として絶対必要だから小学校からしっかり学習し中学校へ送り出していました。

もう1つは自分の感情を文字に表し文書で表せるように「私の心」というノートを子どもたちに持たせました。基本的に帰りの会の5分間で、自分の今の気持ちをノートに書く形をとりました。最初は単なる朝起きてこうしましたという内容からここで何か思わなかったかと聞き、6年生の中頃になると子どもは大学ノート1日に2ページぐらい書けるようになりました。それに私が返事を書く。先生はこう思うのだけどあなたはどう思うという課題を残しておいて次の日ま

徳田教育長

た子どもたちが気持ちを書くという練習しました。

ただ、中には文字を書くのがとても嫌で仕方ない。書くことさえわからないという子どももいました。そのような子には今言ったことをノートに書けば2、3行は書けると促し、こちらはそれに対して何か答えてあげる。それでも書くことを嫌がる子どもたちもいましたが、とにかく書くこと・読むことについて最低必要な力をつけてあげたいという思いで行って来ました。

継続して続けると子どもたちが卒業する時に僕らの宝物になったと言ってくれた子もいました。多い子は1年間で5冊完成した子もいました。やはりしゃべること、しゃべったことを今度はノートに簡単に書いて、書いたら読み返す、読んだことを1回簡単に声出しても間違いはないか確認することがすごく大事だと思います。

自分がパソコンを使うようになってから、文書が作れなくなってきました。僕は必ず何か言いたいことをメモにして、自分である程度の文書を書いてそしてそれをパソコンで入力します。そしてそれについて打ち出したものをもう1回見直して声に出して読む。それをしないと最終的にこの文章でいいのかなと思います。まして自分の中だけにおいておく文書ならばよいのですが、外へ出す文書についてはやはりいまだに書いた後家族に聞いてもらっています。

小さいときからそういうことに慣れ親しんでいる、調べられさせられたりした経験を持つ子は、やはり大きくなって宝物になり、仕事をするようになってからも生かしてくれているのかなと思うことがあります。

だから先ほどこういう資料を見た時、なるほどとは思いますがさっと流してしまう部分もあります。そのためこの部分はどうすればよいのかなど具体的にどうすればよいのかということ各学校作って頂けるとよいという感想を持ちました。

ポンチ絵についてですが、1人の人間をこの木に例えるとして、豊かな人生にしていくためには、肥料、水などを絶えず供給し続けたいといけないうのがこの三つの矢印になっております。

それで大事なときに重点的に処方していけばいいような薬や栄養剤や肥料というものがこの楕円形のもので示されています。もちろんこの楕円形というのは、隣の取り組みのものとも重なる部分もありますので必ずしもこの一つのカテゴリの中だけにとどまるものではありませんので、そういう意味では線的なものだけではなく面的な部分もあると思っております。

町長も、読書に関しては後押しをしてくださっていますけれども、今活字を大事にしなければいけない。読み書きを大事にしていかなければいけない。もちろんタブレット等を使っていくことも大事ですが、子どもたちが自分で発信をしなければ、表現力や判断力などそうしたものは全く身につかないというようなことを、先般お話を聞かせていただいた藤原和宏先生やリクルートから民間人校長さ

れた方もおっしゃっていました。そういう先生に言わせれば情報編集力というふうにおっしゃいますけども、その得た知識という単なる情報の処理力だけではなく、それを自分のいろんな考え方とあるいは自分が体験したことや世の中のいろんな状況とうまく絡み合わせて、そして自分なりの正解のない答え「納得解」をきちんと作ってそれを自分なりに発信できる。それが本当のコミュニケーションであるとおっしゃっていますので、そういうふうなことができる子どもになれば、自身で自分の未来をどんどん考えていけるそんな子どもになっていくのではないかというふうに思っています。そういう意味で庁舎の全庁的という意味で、例えば健康推進課がすでに自尊感情の取り組みを一緒にやりませんかということで今年度から始めていますし、2月には幼稚園の1日入園や、小学校の1日新入学に出かけて行って0予算でできる減メディア親読書の啓発を他の関係部局と連携しながら伝えていければよいというふうに思っています。

こちらのスタートに関してはこの4月を待たずして非常に早い段階から大事なことがあるいは大事にして欲しいことは何かを保護者にはしっかりと伝えていきたいと思っています。もちろん完璧を求めるのではなくて、お母さんがだっことして子どもさんに読み聞かせをすることが、読み聞かせをする側の脳の発達や、それを聞いている子どもさんの脳の発達・心情面の発達に非常に有効であることを伝えたり、自尊感情の部分ではメンタルヘルス予防教育というような、このプログラムを導入できる学年から導入していくといふようなことを考えております。

またここにある多くのものはやり始めているものでありますけども、先ほど八島委員からおっしゃいましたように、やりっ放しではなく、効果があった実践、そうでない実践、学校によっても違いが出てきますので、そういうものをもっと横の糸でくくりながらよりよい取り組みに変えていこうと思っています。

そしてもう一つは、学力向上と関わりますが、どういうところに数値目標を定めるのかということ、この実践をやる上で考えていけないといけないと思っております。

今どの部分から取っていくのがよいのかということを検討しているところですが、そういう見える化できる、数値で表すことができるものを保護者の方にこういうところが伸びてきています。というふうなことをしっかり確認いただきながら一緒に加わっていただくという努力が必要と思っております。

有村町長

第2回の総合教育会議でこちらが示されてそれぞれの皆様から他の視点等々も含めてご意見をいただきました。

今ほど各委員からおっしゃっていただきました視点をしっかりと入れてそれぞれの時期に成長していく、またフィードバックを反映していく根幹ということで広めていっていただけるとよいと思います。

私も少し各委員様のお話を拝聴して感じている部分ですが、やはり自分の表現をできるということが大事だと思います。それは違う視点から見るとその子ども

	<p>たちから表現力を引き出す技量や力を大人たちが周りでしっかりと身につけていき、引き出せるだけの余裕・覚悟が必要と思います。</p> <p>教育長からもお話ありました数値目標の部分は検討が必要だと思いますけれどもやはり愛荘町の皆さんが、自分たちが歩んできた道はこれでよかったというような確信を持てるような数字を意欲的に持っておいた方が良くと思います</p> <p>全体として、いろいろ教育はベース部分の取り組みが必要だということで大変共感を持つものです。一方以前の総合会議で中村委員からご発言いただきました内容に、すべてのことに大変正しいと思っているしこれで良いと思っています。ただ今までと何が違うのかと、今までやってきたものがどうであり私たちが今やろうとしていることが今までと実は何が違うのかというご発言をいただきました。</p> <p>やはり意欲を持ってやっている子どもたちをより伸ばしていけるような先生方の引き出しというところを私は求めて参りたいなと思っております。</p>
八島委員	<p>以前から申しておりますが子どもたちに教える教師の教育の仕組みを構築してほしいと思います。小学校中学校で9年間お世話になるのですが先生はたまたま愛荘町へ配属されたのでレベルが高いか低いかはわかりません。愛荘町の中で1年生3年生5年生とかそういうランクで、メンタルとテクニックと両方を教育した上で、愛荘町の来た先生は愛荘町に来たら楽しい素晴らしい面白い、子どもたちから見てもそう思ってもらえるような教師を育成するにはどうしたらいいかというのを教育委員会で考えてほしいと思います。</p>
徳田教育長	<p>本町には教育研究所というものはございません。けれども新年早々岸邊参事がリーダー役となって国語科の授業の進め方講座を開催してくれました。そうしたところ各学校からたくさん集まり、熱心にワークショップ等をしながら、4小学校横の連携でお互いに学び合おうという雰囲気が出てきておりました。八島委員おっしゃるようにそうした後押しを教育委員会が0予算でできることもたくさんございますので、しっかりやりながら同時にそのスキルやテクニックそしてメンタルの部分でもしなやかなたくましさを持った先生でいていただきたいと思いますのでどういう形になるかわかりませんが、フォローしていければなと思います。</p>
有村町長	<p>本日、いろいろと貴重なご意見をいただきました。</p> <p>本日いただきましたご意見を十分に検討し教育施策に反映していただきたいと思いますというふうに思います。</p> <p>以上で本日の協議事項をすべて終了しましたので、以後の進行につきましては事務局でお願いをいたします。</p>

上林次長	<p>ありがとうございました。 閉会に当たりまして、教育長の挨拶をお願いします。</p>
徳田教育長	<p>本日は長時間にわたりまして、今後の教育の方向性を見定めていくというべき重要な課題につきまして、様々な角度から意見交換を賜り誠にありがとうございました。</p> <p>ご承知の通り、Society 5.0と言われる社会に突入した今、今後はたった5年あるいは10年で世の中が想像を超える幅で大きく様変わりすることが、当たり前になるのではないかというふうに思っております。</p> <p>先週末の新聞には、ソニーが、EV市場に参入するというような記事が大きく取り上げられておりました。そうしたハイスピードで進化していく世の中を生ききれぬ人材、しかもその上で、社会や地域に貢献する。町長は公益に資するという、そういう言い方をされますけれども、そして貢献できる。またその上で、みずからの幸福や人生の豊かさを享受できる、そういう人材をどのように育成していくかというのは、本当に難解な問題ではないかと思っております。そうなりますと、当然身につけなければならない新たなスキルも次々出てくることになりかと思えます。長年、教育の世界に身を置いてきた私のようなものにとりましては、教育をある意味、別世界で考えてきたという時代もございました。時には、そういうことも、必要ではなかったのかなと思っておりますけれども、今、世界の経済、政治環境、社会、人権等実に多様な分野の流れを把握することなしには、将来の教育を構築することができないのではないかというふうに考えております。</p> <p>しかしながら、一方で人間自体が大きく例えば生物学的にあるいは物理的に変わってきたということでもないというふうに私は思っております。そのことを考えると、特に心を始めとしてその人間の内面の育ちを豊かにするためには何を大切にしなければならないのか。教育的な価値というものはどういうところにあるのか、そうしたことはそんなに180度変わるものではないというふうにも思うところがあります。先日、講演を拝聴いたしました教育実践課の藤原和宏さんは、これからの時代を生き抜くためには、情報処理力と情報編集力をバランスよく身につけていないといけない。頭の回転が速くかつ頭がやわらかいということが、賢いということであると述べておられます。</p> <p>また、これからの人生感を富士山型から八ヶ岳型に変えていく必要があるというような試算もございました。</p> <p>富士山型というのは、定年前ぐらいが頂点でそのあとは余生というような考え方ですけれども、そうではなしに人生100年と言われる今やっぱり次々に生き生きと次の山へ登っていく。高みを目指して、駆け上がっていく。そういう人生にしないといけないというようなそういうご指摘でありました。なるほどと私は、感じたところでございます。こうした考え方を今後の新たな愛荘町の教育に生か</p>

上林次長	<p>しながら、本日ご議論いただきました愛荘未来を拓く教育16年構想を今後も具現化すべく、準備を進めていきたいと考えております。本日はそのスタートラインというべき会議であったと思っております。今後とも皆様方から様々なご意見をいただければ幸いです。</p> <p>本日は長時間、大変ありがとうございました。</p> <p>以上で第2回の総合教育会議を終了したいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>午後4時40分 閉会</p>
------	---